

ふたかみ NEWS プチトマト

古着市、開催しました！！

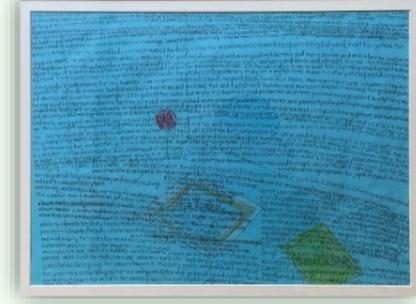


ふたかみ福祉会後援会として2年ぶりの古着市を11月13日に開催することが出来ました。コロナ対策をおこないながらの開催で、来場して頂いた皆様にはご不便をお掛けしましたが皆様のご協力で大盛況の1日となりました。ご協力ありがとうございました。



産経はばたきアート公募展2021

産経はばたきアート公募展2021にハピバールの高坂 洸奈さんが佳作を受賞しました。作品のタイトルは、「レスキューフォアタイムトラベルフォージャーニーマシフイズトゥールーリーカイフドリー」。和英辞典を見ながら作品を描きあげました。



中央部の絵はタイムマシーン研究所の駐車場を表現しました。授賞式はコロナの影響で中止となりましたが、今年もハピバール独自で授賞式を行い、なかまのみなさんで祝福しました。おめでとうございます！
(阪本)

このまちで暮らしたい
「障害者生活耕房」(グループホーム)
—建設基金のお願い—
2022年6月open予定！！
新しい暮らしを支える拠点として…
建設基金へのご協力よろしくお願ひ致します。
◆郵便振替◆
【口座番号】 00950-3-225417
【加入者名】 社会福祉法人 ふたかみ福祉会
◆銀行からゆうちょ振込◆
【金融機関コード】9900【店番】099 【預金種目】当座
【店名】〇九九店(ゼロキユウキユウ店)
【口座番号】0225417

「グッジョブチケット」
新型コロナウイルスワクチンの接種を終えられた方に羽曳野市内の登録店舗で使用可能な商品券(おひとり様2,000円分)が受け取れます！
※詳しくは、羽曳野市のホームページを検索♪
カフェ ハピバールでも使えます！



- 後援会入会及び更新の方々(敬称略)
【2021年度10月】
・船越音昭 ……以上3口
・森和寛 高村文雄 ……以上2口
・宮本幸代 宮本民子 小田百合子 北林亜弓 土山喜代美 佐々木有馬 松平美江子 安宅睦子 ……以上1口
■ボランティア ……であい様/畑英作様/細川直幸様/松倉和代様/垣内秀夫様
■アルミ缶回収(10月分) ……1239kg
ありがとうございました

◆2021年度ふたかみ福祉会後援会入会、更新のお願い◆
法人ではグループホーム建設が始まっています。
皆様の引き続き日中支援事業所や相談支援へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。
【個人会費:1口3,000円 団体会費:1口10,000円】 郵便振替口座:00940-5-325894

第4回きょうせけん全国大会に参加して

子どもの自立と親の自立 講師：青木道徳

10月29日に初のオンラインで行われ、はびきの園からなかまや職員数名で参加しました。例年は一カ所の会場に集まって行われるのですが、今年はパソコンの画面を通しての開催でした。昨年は和歌山で行われる予定でしたがコロナの影響で初の中止となったので、2年連続で『初』という事になります。

今回の大会は挨拶や情勢の報告は短くわかりやすく、各都道府県や離島など50の地域からの報告をなかまが中心になって行いました。作業所や自主製品の紹介、特産品や観光地など地域の特徴が紹介されたり、ゲームや自分の想いを訴える『わたしの主張』という企画もありました。リモートの利点を最大限に活かした企画になっており、参加のしやすさから一万一千人を超える過去最高の参加者がありました。

各地の交流では、特に自主製品や特産品の紹介が楽しく、地域性に富んだものがたくさんあったの

で、日本各地を旅行しているような感覚になりました。地図を見ながら「今ここから話してる」「私たちのいる場所はここ」と盛り上がりました。これもオンラインの醍醐味です。『わたしの主張』で印象的だった事は、一人ずつ好きなものを言っていく場面です。好きな事を話しているときの顔はみんなとても素敵でした。

情勢報告では政治の大切さが語られました。コロナ禍は私たちの社会の課題を顕在化させました。そんな時だからこそ、私たちは障害のあるなかまを真ん中にして全ての人の安全を守っていく必要があります。一人一人の笑顔を守る為に法や社会の仕組みを変えていく必要性が語られました。大会を通して、繋がり励まし支え合う事が出来る事を確認できました。どんな状況でも時は流れ情勢は動いていきます。引き続き運動を全国のなかまと繋がりをしながら続けていこうと思える意義のある大会でした。(関口)

ステップアップ研修

講師：田村和宏

はるクラブ・BBQ大会！

ハロウィンパーティー

10月30日(土)「障害福祉ステップアップ講座」の2回目が行われました。



今回も立命館大学の田村和宏先生を講師に招き、9名の職員が受講しました。2回目は「つながる・つなげる」連携はなぜ必要なのか」がテーマでした。

まず前回の振り返りから始まり、その後数日前から出ていた宿題の発表がありました。その宿題とは「〇〇と△△がつながることの必要性について」「つながるにはどういうことが必要か」の2つのテーマ、各1000文字以上のレポートでした。聞いた瞬間「1000文字!!!」と叫んでしまいました。あれよあれよという間に提出期限が迫りなんとか期日までに提出完了!

発表は一人ずつ前に出て行きました。自分の番が終わるのをいや

れと思うのもつかの間、他の職員の発表についての質問や感想を述べなくてははいけません。気の抜けない3時間です。

田村先生がみんなの発表をホワイトボードにまとめてくれると「つながり」は、①地域②行政機関③支援機関④自分⑤自分以外⑥職員⑦仲間⑧安全(心の安定)の5つに分類され、それぞれを細かく説明してくれました。例えば④の職員⑦仲間では、興味を持つ↓その人を知る↓つきあう↓信頼、と言うように、説明の中でも言葉がどんどんつながっていきました。最後は「人間は一人では生きていけない存在」と、まとめられました。

それぞれがこのテーマについて自分なりに考え文字にするとどうなるか、とても良い勉強と経験になったと思います。今回学んだことや気づいたことを日々の実践に生かせるように「研修から実践」へつなげていきたいと思えます。(大西)

10月2日(土)にふたかみ福祉会主催の障害福祉連続講座を行いました。第3回となる今回は『子どもの自立と親の自立』をテーマに相談支援研究所の代表をされている青木道徳氏にお越しいただきました。

ほまれの家族、他事業所の家族、職員、相談支援事業所の職員など約10名の参加者が自己紹介がてらお子さんの状況や支援などで課題に思っていることなどを話し合い、それに基づいて青木先生が今回のテーマに沿ったお話をされる形式となりました。

「自立」は経済的なことだけでなく、自分を律する「自律」があります。自分の意思を言葉ですることが難しい子でも、もちろん快・不快はあり、それを表現できるように支援することが支援者には求められます。その子の思いを受け止めて読み解き、それを言語化していきます。「そうやねえ。しんどのいのやねえ。」と言葉にして受け止め、それが合っていれば自分の気持ちを整理していく力に

なっていくきます。「自分で、自分からやるうとした」ことにどんな小さなことでも肯定することが、援助を求める力、受け入れる力になり、折り合いをつける力(我慢)につながります。

周りからどう見られているのか、自分はどうなっていくのかの不安が自傷や他害となって現れることもあります。それはよりよい自分でありたいと願う葛藤の現れです。安心できる心の居場所があり、自分をありのままに受け止めてくれる大人がいることが子ども達が成長・発達する原動力になります。としめくくられました。

参加された方からは「子どもと接する中で行き詰ることも多いですが、先生のお言葉を思い出しながら過ごしていきます。」「みなさん、悩みながら子育てされているんだ。自分だけがひどいのではないんだ、と勇気が出ました。」「日常の支援に取り返されて忘れがちなことを振り返る機会になりました。」との感想をいただきました。(楠尾)

支援センターはる(南河内北

障害者就業・生活支援センター)に登録されていて、一般企業に勤めている方々の余暇活動として、今回はBBQの大会を行いました!「コロナの影響により延期や中止になっていたのですが、天候にも恵まれ晴天でのBBQとなりました!参加された方々は久しぶりのはるクラブに嬉しそうなお表情!!机・椅子・炭など、みなさん協力しながら準備を進め、和気あいあいとした会となりました☆これからも感染症対策を徹底しつつ、みなさんが楽しめる取り組みを考えたいと思います!(大前)



はびきの園では、10月29日にハロウィンパーティーが開催されました!一つの場所に全部の班が難しい状況にあるので、今年はリモートでパーティーを行いました!『お菓子ドロボウに盗られたお菓子を返そう!』という内容で、神経衰弱のルールで1階、2階に分かれてゲームを行いました。リモートではありますが、それぞれ応援の声が飛び交っていました。全部の班が無事にお菓子を返すことが出来、自治会メンバーよりお菓子が配られました。みんな「トリックオアトリート」と元気にお菓子をもらうことが出来ていました。(植田)

